

雑報

第23回リエージュシンポジウム

6月23日から26日までの4日間ベルギーの都市リエージュで化学特異星を主題とする国際シンポジウムが開かれた。今回化学特異星がとり上げられたのは、IAU内のワーキング・グループの勧告を受けたもので、ミシガン大学の C. R. Cowley 教授が議長 (President) をつとめた。化学特異星 (CP Stars) とは、O型からF型の主系列近くに分布する、スペクトルに何かの元素の吸収線が異常性を示す星の総称で、Ap星 Am星などもこの中にふくまれる。今回のシンポジウムには18カ国から110人の出席者があり、日本からは4人が参加した。提出された論文は計67編あり、うち50編は観測関係、残りが理論関係であった。観測で目についたのはIUE (紫外分光衛星) のデータが一斉に出たことで、この衛星を使って特異星の観測をしているグループが、米、英、西独、仏、伊、オーストリア、日本にあることを知ることができた。それらの発表を聞いて感じたことは、IUEのデータに手をそめたどのグループも同じ困難に行き当たっているなということだった。その困難というのは、紫外線領域にはB型星であっても強い吸収線がほぼすきまなくあって、連続光のレベルの推定がむづかしいこと、更に現在入手できる紫外域の原子・イオンの線スペクトルのデータが不完全で、スペクトル合成の方法でも現実の観測を再現できない場合が多いことなどである。今後当分これらの問題になやまされなくてはならないだろう。次に理論の方では今回も拡散説論者の活動が目立った。特異星の拡散説は1970年にミショーにより提案されたもので、星の大気が完全に静かであれば輻射圧と重力の関係で化学組成の異常は全て説明できるという立場をとる。最近10年間ミショーを中心とするグル

ープは、主に観測家からもちこまれる難題を次々にかたづけ大活躍してきた。しかし、O型からF型にかけてみられる特異星の性質は複雑怪奇で、温度、重力、回転、磁場などの組み合わせだけですべてを説明しきることはとてもできまいとの意見の人も多いように思える。そのような空気を反映してか、リエージュでのミショーは大変攻撃的だったのが強く印象に残った。拡散説の立場からは容認できないようなデータにはひとつひとつ反論を加えていたが、議論がかみあっていないこともあったように思う。最終日の昼食時に日本から来た4人の話題にミショーが出た。そこで話では、拡散説というのはすでに一個のイデオロギーで、その教説に反するような言動は認めがたく、従ってあのような態度に出るのだらうという解釈になった。シンポジウムの結論らしいものはなかったが、色々なデータが出て、特異星の解釈の面ではまとまるどころか混乱が激しくなったというのがひとつの結論であろう。今後当分この情勢は続くと思われる。(定金晃三)

学会だより

東京天文台一般公開

東京天文台の一般公開 (本会後援) が11月7日 (土) に行われる予定です。台内諸施設の公開は午後2時から午後4時30分まで、月面観望は午後7時30分まで行われます。天候の都合により観望終了時刻を繰り上げることがあります。なお、雨天の際には中止され、当日参観を目的の自動車の構内乗入れは禁止されます。幼児は必ず保護者の同伴をお願いします。

1981年7月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	—	—	6	12,	47	11	9,	96	16	14,	152	21	13,	85	26	14,	226
2	—	—	7	10,	32	12	11,	153	17	14,	162	22	17,	118	27	16,	201
3	—	—	8	9,	28	13	12,	138	18	14,	138	23	15,	137	28	16,	196
4	—	—	9	8,	28	14	12,	142	19	12,	122	24	—	—	29	14,	182
5	12,	82	10	8,	45	15	12,	135	20	17,	124	25	15,	174	30	13,	147
															31	12,	192

(相対数月平均値: 182.5)

昭和56年9月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町251	啓文堂 松本印刷
定価 300円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話 三鷹 31局 (0422-31) 1359	振替口座 東京 6-13595